

10月9日(日) 15:00~16:00 第1会場(会議棟 2階 大ホール)
座長：富永 敦子(一般社団法人 宮城県薬剤師会 副会長)

SL1-1

おかえりモネから学ぶこれからの地域医療

たのうえ ゆうすけ
田上 佑輔



医療法人社団やまと 理事長

震災から10年以上経ち災害以降の地域の移り変わりと同時に、震災前から地方が抱える少子高齢化、人口減少、医師偏在の課題が顕在化するのを在宅医療に関わる医師という立場で見してきました。

2013年に宮城県登米市に訪問診療専門の診療所を開業して、地方と都市部を循環しながら持続可能な地域医療を目指す活動を始めて10年近くになります。そもそも「医師が少ない地域でも患者家族や地域が安心できる地域医療」と大学を辞めて始めた診療所でしたが、開業後10年実践を繰り返していく中で「患者さんやご家族だけでなく地域さらには共に働くメンバーの個々の自己実現を目指す」という文化が自分たちチームの中に生まれつつあることを実感しています。

不易流行、変わりゆくものに合わせて変化しなければいけない事と地域で変わらない価値観や信念、想いがあります。宮城県登米市が舞台となったNHK朝の連続ドラマ小説「おかえりモネ」ではそのような個々の想いと、変わる事に対しての不安や何かを取捨選択することに伴う責任を軽く感じさせ優しく背中を押してくれる出会いや寄り添いが描かれました。

患者さんやご家族との出会いから地域との出会い、寄り添いを通して私たちのチームが何を感じ、さらにはこれから何を目指しているのか、医療の進化やテクノロジーの進化と共に「想いを力に変える」実践が何を意味するのかお話できればと思っています。

1980年5月9日 熊本生まれ。

経歴

- ・1999年 3月 鹿児島私立ラ・サール高校卒業
- ・2005年 3月 東京大学理科Ⅲ類卒業
- ・2005年 4月 千葉県国保旭中央病院入局(初期研修医)
- ・2007年 4月 東京大学医学部付属病院腫瘍外科入局
- ・2013年 4月 やまと在宅診療所登米、やまと在宅診療所高島平設立
- ・2014年 12月 医療法人社団やまと設立

現在：医療法人社団やまと理事長。宮城、神奈川に6診療所を構える。

主な活動

1980年熊本生まれ。東京大学医学部卒業、外科医を志し千葉県国保旭中央病院で経験を積みながら、アメリカやカナダのさまざまな病院を見学。この過程でがん患者さんに接する機会が多かったため、彼らに貢献したいと、2007年から東大医学部附属病院腫瘍外科の医局で研究を始める。そんな折、2011年の東日本大震災での災害医療ボランティア活動で災害地域へ入り、医師不足の地域での継続的な支援の必要性を感じる。また、東大病院に在籍していた際に、末期がんで手術が不可能な患者への「看取り」の重要性を感じ、住み慣れた場所で最期を迎えたいと願う患者や家族の力になるかと決意。2年後の2013年、宮城県登米市と東京都板橋区高島平の2か所で、安井佑と共にやまと在宅診療所を開業。他に医療で日本を良くするチームGMJを作り、同時に医師からの情報発信メディア「coFFee doctors」を運営。地域の方々が安心して生活できる登米市になるようにと、2014年6月「Café coFFee doctors」もオープンし、医療・介護相談を無料で行い、定期的にOMC(オープン・メディカル・コミュニティ)勉強会を開催している。日々の診療以外にも地域住民や行政と関わり、地域住民やコメディカル、行政も巻き込んで地域の医療の質を上げる活動に取り組み、登米市の地域包括ケアアドバイザーを務める。都市⇄地方、両方に拠点を持つことによって医師が双方でキャリアを積むことができる「医師循環型」キャリアモデルの確立に奔走し、2017年に「やまとプロジェクト」を発足。都市⇄地方を循環する医師の働き方モデルを医師不足、地域医療再生の一つの解決策として提案している。これからの在宅診療・地域医療についての勉強会、講演を行っており、多数のメディアに活動が取り上げられている。2021年NHK朝の連続ドラマ小説「おかえりモネ」のモチーフとなる。

略歴

熊本生まれ。東京大学医学部卒業後に千葉県国保旭中央病院での研修医を経て東京大学医学部付属病院腫瘍外科に入局する。東日本大震災でのボランティア活動を機に2013年に宮城県登米市と東京にてやまと在宅診療所を創設する。現在は医療法人社団やまと理事長に就任。診療以外にも地域住民や行政と関わり、2014年より登米市地域包括ケア推進アドバイザーに任命されている。2017年に「やまとプロジェクト」を発足。都市と地方を循環する医師の働き方モデルを医師不足、地域医療再生の一つの解決策として提案している。これからの在宅診療・地域医療についての勉強会、講演を行っており、多数のメディアに活動が取り上げられている。その取り組みが2021年NHK朝の連続ドラマ小説「おかえりモネ」のモチーフとなる。